

もうすぐ2学期が終わります。2学期の学校生活は、いかがだったでしょう。この機会に振り返って、3学期はどのように過ごしていこうか・・・と考えてみてくださいね。

みなさんもわかっているように、新型コロナウイルスへの感染は、自分や大切な家族、友人にも起こることがあります。以前もお伝えしましたが、「お大事に。どうか早く治りますように。」の気持ちを忘れずに過ごしてほしいと思います。6月に休校が明けたとき、新型コロナウイルスについてみなさんに考えてもらいました。感染した人を特定したり、責めたり、攻撃したりということが起こりました。<sup>へんけん</sup>偏見や差別につながることで、<sup>じんけんしんがいはい</sup>人権侵害や<sup>ひぼうちゆうしょう</sup>誹謗中傷<sup>1</sup>は許されません。インターネットやSNS<sup>2</sup>でもあらゆる差別やデマ、ひどい言葉が書かれることがありました。今回はインターネットやSNSについて考えたいこと、知っておいてほしいことをまとめました。

## ◆◇SNS上での人権侵害

SNSは連絡を取ったり、情報を発信したりするのに便利です。今は身近な自己表現の場としても活用されています。しかし、勝手に写真や動画を撮ったり、個人情報を書き込んだり、誹謗中傷をしたりすることは、絶対に許されません。「表現の自由」とよく言われますが、**誰かの人権を侵害する自由はありません**。人権とは、安心・安全に生活する権利、幸せに生きる権利など、**すべての人が生まれたときから持っている権利**のことです。無責任な投稿や書き込みは、相手の心を傷つけるだけでなく相手の権利を奪<sup>あく</sup>います。悪意のある言葉は、その一言で、ときに誰かを追い詰め、命を奪<sup>うば</sup>うことさえあります。生徒会と人権サークルのみなさんが文化祭でも伝えてくれましたが、写真や動画を投稿する前に、その言葉を書き込む前に、一度立ち止まって考えてほしいと思います。

不適切な書き込みを見かけたとき、SNS上にある「通報」ボタンを使ったことがあるという子がいます。これは、**差別や誹謗中傷に「NO」と言うこと、差別や誹謗中傷に反対する行動**をとってくれたということです。心強く思います。「差別や誹謗中傷のある社会は嫌だ!」と言ってくれたのです。多くの方が**差別や誹謗中傷のある社会に反対する**行動をとることができれば、差別や誹謗中傷は少しずつなくなっていくかもしれません。そのために、自分はどのような社会で過ごしたいのか、どのように行動していくのかを見つめ直すことが大切です。

裏面へ

1 根拠のない情報や思い込み（デマ）、悪口、命を脅かす言葉、差別的な言葉、人格を否定する言葉などによって、相手を傷つけたりおとしめたりすること。  
2 「ソーシャルネットワーキングサービス」の略。LINE、twitter、Instagram、Facebook など。

## ◆◇インターネットやSNS上での差別、誹謗中傷に対処するには・・・

SNS上での差別や誹謗中傷、いじめなどの不適切な書き込みを見つけた場合は、学校の先生や保護者の方など信頼できる大人に知らせるほか、それぞれのSNSにある「通報」ボタンや、次のものを使って知らせることができます。人権侵害や差別、誹謗中傷に「NO」と言う権利が、みなさん一人ひとりにあります。もしもそういう場面に出会ったら、人権侵害や差別、誹謗中傷に反対する行動をとってほしいと思います。

### ◎「ネットみえ〜る」(三重県教育委員会が作成したアプリ)

・アプリダウンロードURL

①アップストアURL

(<https://apps.apple.com/jp/app/id1518187242>)

②グーグルプレイURL

([https://play.google.com/store/apps/details?id=mie\\_ui\\_mobile\\_fixer.inc.com](https://play.google.com/store/apps/details?id=mie_ui_mobile_fixer.inc.com))

・知らせる方法

- (1) いじめや不適切な書き込みの画像(スクリーンショット)をアップロードする
- (2) その画像に関する情報を入力する
- (3) 送信ボタンを押す



### ◎三重県警察ホームページ「SNSで不適切な書き込みを発見したら」

([http://www.police.pref.mie.jp/consultation\\_systems/form.php?no=13](http://www.police.pref.mie.jp/consultation_systems/form.php?no=13))



「私は差別をしない、ではなく、私は差別に反対と言う。」(テニスプレーヤー 大坂なおみ選手)

大坂選手は、9月の全米オープンで人種差別に抗議し、警官や人種差別の暴力によって犠牲になった7人の黒人の名前をマスクに書いて試合に出ました。かけがえのない命が、理不尽な暴力で奪われています。奪われてしまった彼らの命は、もう戻りません。彼らにも家族がいます、友人がいます、同僚・同級生がいます。尊い命を持つ、同じ人間です。これは、アメリカで起きたことですが、日本に住む私たちにも、きっと関係のあることです。

\*次回は、12月23日(水)の人権講演会の振り返りをお届けする予定です。